

発刊のことば

沖縄県教育委員会教育長 高 良 清 敏

沖縄県教育委員会は、昭和五十二年三月に『沖縄県史』全二十四巻を完結させ、各方面からご好評をいただきましたが、その成果を踏まえて、さらに編集事業を発展させるべく、引き続き、昭和五十二年度から『沖縄県史料』編集十年計画を発足させ、現在、第二次編集業務を進めております。

本計画は、『沖縄県史』に収録できなかった近代史料をはじめ、『沖縄県史』が対象としなかった前近代、戦後を含めた史料を収録し、「近代」「前近代」「戦後」の三系統の史料集を逐次刊行していく所存であります。

さて、沖縄の歴史と文化は、わが国でも独自の位置を占めており、その伝統の解明と継承は、ひとり県民の要求であるのみならず、各分野の研究者から強い関心が寄せられております。しかしながら、沖縄の貴重な文化遺産は、去る沖縄戦でほとんど失われ、史料の空白状態は、沖縄研究にはかり知れない困難をもたらしました。

幸い、『沖縄県史』の編集事業の過程で関係各位から多大なご協力が寄せられ、県外に保存されている沖縄関係史料を活用する途がひらかれ、さらに県内に散在していた諸史料の発掘収集が進み、多くの成果をあげることができました。これに旧琉球政府から引き継いだ戦後史料をあわせて、ここに沖縄史の全過程を対象とする史料集の刊行を計画いたしました。

この『沖繩県史料』の刊行事業が、今後の沖繩研究の発展、深化に貢献し、新沖繩県史の基礎史料として役立つことになれば、これに過ぐる喜びはありません。本編集事業の遂行にあたっては、新たな史料の発掘収集作業をはじめとして、幾多の困難が予想されますが、各位の従前にまさるご理解とご協力によって、その完遂を期したいと存じます。

本年度は、「前近代」系統の第7巻として、『沖繩県史料』前近代7（首里王府仕置3）を発刊することになりました。昭和六十三年度発行の『沖繩県史料』前近代6（首里王府仕置2）の規模帳等とともに、首里王府が各行政機関の職掌に応じて公務案件の遂行、執務上の規定として布達した文書の「公事帳」とこれらを補完する例規集ともいえる「例帳」の大半を収録しました。喜舎場永珣文庫の「八重山島小与座公事帳」他十数編をはじめ、成城大学民俗学研究所蔵の「宮古島仕上座公事帳」他数編、琉球大学附属図書館所蔵の「久米具志川間切公事帳」他、沖繩県立芸大附属図書・芸術資料館所蔵の鎌倉芳太郎ノート所収の「宮古島御用布座公事帳」他、仲原善秀氏所蔵の「久米仲里間切公事帳」他など、四十編余を収録しました。すでに活字化されたもの、今回初めて紹介されるもの等いろいろですが、いずれも近世における首里王府の基本施策を知る上で欠かせない史料だと思います。県民をはじめ、研究者の間で、広く活用されることを願っております。

最後に、本書のために貴重な蔵書の利用をご快諾下さいました各機関、諸氏に深く感謝申し上げます、刊行のことばといたします。

平成三年三月